

入試の不正行為と公平性・公正性

西郡 大(佐賀大学)

大学入試の公平・公正性に対する発表者の立場



大学入試のあるべき公平性・公正性 → **×**

入試の当事者がどのように公平・公正を捉えるか (≒個人の感覚)

私は一般選抜で受験したけど、〇〇入試の合格者は、かなり甘い入試方法だと思う。不公平だわ。

面接試験の質問がまったく関係ないの外れなものだった。あれじゃ、正当な評価とは言えないわ。

面接官は、自分の話を真剣に聞いて評価してくれたと思う。これで不合格になってもしようがないな。

入試の公平性・公正性に関わる一般的な問題



実施者

手続き

- 入試制度 (多様な選抜区分)
- 評価方法 (主観的な評価)
- 選択科目 (得点調整含む)
- 受験者に対する処遇や対応
- ミス発生時の対応
- 恣意的な操作 など

公平な手続きで評価されているのかなあ

公平に評価されているから不合格でも仕方ないか

不正行為として問題となることが

⇒ 2018年における医学部不正入試問題

↓ 主として実施者の不正に関して取りまとめたもの

- 「大学医学部入学試験制度に関する規範」(2018.11.16)
- 「大学入学者選抜の公正確保等に向けた方策について」(2019.5.31)

不正行為に手を出すのは、どのような状況か？

【立場や置かれている状況】

- 不正行為によって失うものよりも得られるものが大きい。
- 組織的不正行為 (プロの仕業)

【不正行為の技術革新】

- 見つけることが困難なカンニング技術がある。
- 見つかったとしても言い逃れができる技術がある。

【赤信号みんなで渡れば怖くない】

- 自分ひとりではないという感覚 (他にもやっている人がいる状況)

不正防止対策として何ができるか？

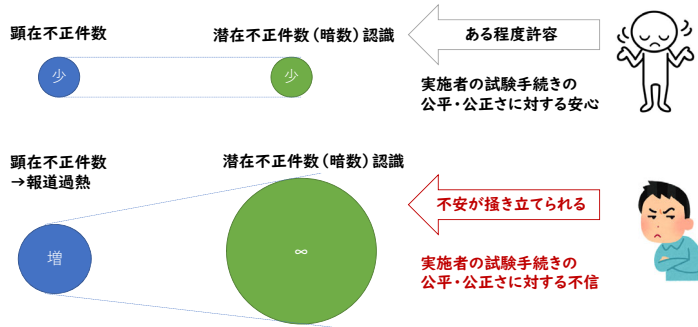
【万引き防止対策より】

- 売場の視認性の確保
- 高額商品や人気商品の陳列方法
- 試着室の工夫
- 店舗内全体の視認性の確保
- 商品の整理、点検を行う
- 防犯ミラーの設置
- 万引き防止用機器 (EAS) の設置
- 防犯表示による注意喚起
- 従業員の声かけによるアピール
- 店内放送を利用した声かけ
- 従業員、警備員による店内巡回

【入試における場面】

- 試験場の設営
- 該当なし
- 途中退出の対応など？
- 監督者の立ち位置や配置
- 持ち物チェック, 受験生のチェック
- 現時点では該当なし？
- 現時点では該当なし？
- 張り紙, 受験案内への掲載
- 怪しい受験生への声かけ
- 休憩時間等に放送？
- 監督者の机間巡視

潜在不正 (暗数) に対する不安・不信の助長の抑止が大切



受験生の公平・公正認識からみた不正行為の構造

不正行為顕在化

- 不正行為者の成績無効となる場合は公平性の点では不満は生じにくい。
- ただし、判明時期による。入試ミスと同じ構造。
- 不正行為数 (摘発数) が増えすぎるとどうなるか。



不正行為の「摘発」よりも「予防」が重要

難

潜在的な不正行為

- 実施者として、可能な限り潜在的な不正行為を除去・抑止する努力が必要。
- 顕在化する不正行為数が潜在的なものに対する不信感を増長させる。



入試の実施手続きに対する不安や不信感が増大
→ 公平・公正認識に影響

疑念



不正行為防止に向けた基本的な考え方

- 一部の不正行為者のために、受験生全体に影響を及ぼしたくない。
- 不正防止装置等を導入しても、それを回避する不正行為は発生する。
- テクノロジーの進化に、防止策が追い付かない。
- 監督業務や試験準備の負担は避けたい (現状の運用方法は変えたくない)。
- それでも何かの手を打つべしとしたら？

まとめ①

不正行為をさせない体制と準備は、試験実施者の重要な責任。

ただし、不正行為と対策のいちごっこは自明。(コストの問題)

不正行為の顕在化が潜在的な不正行為に対する不安や不信感の増大に繋がる。これが手続きの公平性問題に発展する可能性。

「潜在的な不正行為は多くない」という受験生の“実感”が重要。

不正行為の「摘発」よりも「予防」をいかにできるか。

まとめ②

本科研は、入学試験の実施基盤にも関係がある？

研究としては、評価面に意識が行きがちだが、その実施基盤に注目することも大学入試学の1要素となるはず。

例えば、不正防止策の提案があるとすれば、今後の入試のDXが進む中で解決できるようなこともあるかもしれない。

日本の試験文化に適した実施基盤(試験運用, 問題作成・管理等)の在り方に関する研究というアイデアもある？